

## 1. ビオトープの駒の頭 (田村 勝芳 副会長)

ビオトープの大型水車への水路としていた架空の木製の樋が8年を経て腐食も始まり水漏れもあるので全面的に改造することになった。会員で種々と話し合いの結果現地の条件に合うサイフォン式の樋を作ることにした。二俣瀬には650年前に藤本五左衛門が中心になり甲山川の水を車地側に堰を造り木管で厚東川の底を潜らせて対岸に吹きあがらせるサイフォン式の樋を造り木田側の田を潤した駒の頭の史跡がある。二俣瀬ビオトープの基本コンセプトの自然環境教育の場、二俣瀬をアピール、市民の憩いの場、にも沿ったものにもなり会員で1月19日の作業日に実行しました。既設の木製樋を撤去後100ミリの塩ビ管を水車の側まで埋設して4本の桧の丸太でやぐらを作りこの中に立ち上げて水車に注水する方式にしました。ビオトープの中に二俣瀬の史跡駒の頭を再現しました。塩ビ管の外側には孟宗竹を割って貼り付け外観もきれいになりました。周囲が変化したことにより5メートルの径の水車も一段と目立つ風景となりました。当日は助成金を頂いている山口きらめき財団の担当者も見学に来られて会員一同は張り切って作業を行い完成することが出来ました。通水テストで水車が回り始めると全員が拍手をして喜び合いました。

※ 二俣瀬をアピールする場の一環として市道横の注水口に“駒の頭”の史跡文を転記し看板を立てたいと思います。

## 2. 活動報告 (事務局 記)

— 2月3日(日) 寒い中にも天気が持ちこたえ、ビオトープ修復作業が下記かなり捗りました。

18名の参加でした。お疲れ様でした。

①草原ゾーン水流れ側溝の猪被害箇所修復 作業完了しました。

②椎茸ホダ木 養生箇所(原田事務局宅)より山に運搬しました。整木は3月末ごろ行ないます。

③修復用杭製作、孟宗竹切り出し。(池ゾーン用)

— 2月3日(日) 13時 青年会議所環境学習事前調査 志賀会長他6名 原田マ案内

— 2月4日(月) 本日東岐波の西村 章ご手配の古代蓮を受領しました。

4年ものの蓮根、2年物の鉢植え蓮2鉢と実を少々頂きました。

蓮根は明日植栽いたし、合鴨が入ってこないよう防護ネットを張りめぐらします。

実は3月彼岸明けに植え込みをしたらよいと聞きましたので会員の方に分散播種し、2年目に生育の良いものを現地に植栽したらと思います。

宇部健康福祉センター主催の古代蓮植栽が失敗に終り行事に参加された方の期待に添えるよう、これで「つくる会」がフォローアップ出来ます。

— 2月5日(火) 昨晚受領した古代蓮(大賀蓮)を本日植え付けをしました。参加者は吉富匡、藤村、原田武、原田マでした。合鴨の掘り起こし防護としてネットを全周に張り巡らし、又、植え付けの3箇所は竹杭で目印をつけました。

東岐波の西村さん曰く今年花が見られるのではとの事楽しみにしてください。

池ゾーンや湿地帯ゾーンの猪被害修復用土15トン購入搬入しました。(水車収入口箇所6トン東屋北側市道駐車するところに9トン)

— 2月8日(金) 池ゾーンの猪被害の修復用として本日孟宗竹(平均90φ×2400mm)115本を田村副会長お手配で入手し運搬しました。田村、吉富匡、原田マで行いました。

その他

- ①旧水車水路の廃材を振り分け片付け、使用困難なものは処分しました。
- ②池からの排水口水漏れで土手が大きく崩れる寸前でした。予防保全でモルタルを打ち修復しました。
- ③美濃和さんが心配されていたミズキンバイの合鴨被害のネットは全く役に立たず。網をかいくぐって島からか？又は土手から網仕切りを越えミズキンバイ側に入っていました。幸いミズキンバイの被害はありませんでしたが、本日より養育小屋から外に出さないようにしました。

ー 2月15日(金) 車地大空さん方の竹林から孟宗竹の長もの15本を頂き大空さんと切り出しし準備しました。

ー 2月16日(土) 寒い中15名の活動参加を得まして池ゾーンの猪被害の土手の修復を行ないました。準備した竹材はほとんど使いましたが、修復作業は後一回実施しなければ完了しません。3月第一日曜日宜しくお願ひします。

本日取り決めた事

- ①合鴨農法は今年も実施する事になりました。ふ卵器借用期限もあり近日中にトライします。16日夜より12個の卵をふ卵器に投入しました。孵化は3月12日～13日頃でしょうか？
- ②合鴨の飼育範囲は現在の蓮田のみとし柵取り付けは地区会員により行ないます。

ー 2月19日(火) 早速蓮田全域に金網とネットを張り巡らし合鴨の遊び場としました。池ゾーンの仕切りネットは取り外し済み。林弘、藤村、原田マ各会員と地区の大空さんでした。

### 3. 今後の予定(事務局 記)

◎ 見学者

ー4月20日(日) 青年会議所御一行100名 遊ロードからビオトープ見学案内

◎ 行事

ー3月2日(日) 活動日 池ゾーン引続き猪被害の修復予定、湿地帯エコアップ

ー3月15日(土) 活動日 椎茸ほだ木の整木、池内浮島拡大作業、湿地帯エコアップ

### 4. 来訪者の声 (東屋のノートより一部抜粋)

今月はありません。

### 5. ビオトープ関連(ビオトープ周辺の植物) 美濃和 信孝

#### ヤブツバキとチャノキ

ヤブツバキは日本の照葉樹林を代表する樹木です。日本の植生は、大きく4つに分けられ、ヤブツバキ・クラス(暖温帯)、ブナ・クラス(冷温帯)、コケモモ・トウヒ・クラス(亜寒帯)、ハイマツ・クラス(高山帯)と呼ばれます。東北地方の海岸から南西諸島にかけての大部分はこのヤブツバキ・クラスの植生に属し、ヤブツバキは暖温帯の標徴種となっています。標徴種とは、優先度とは無関係に、ある特定の生物群集の存在指標となる生物種のことで、ヤブツバキは韓国南部、台湾にも産しますが、ほぼ日本特産と云ってよく、リンネはこの植物に *Camellia Japonica* Linné(カメリア・ジャポニカ・リンネ)という学名をつけました。日本から伝わったツバキはその後、ヨーロッパで19世紀に園芸植物として流行し、それがヴェルディのオペラ「椿姫」につながっていきます。ツバキの花期は冬から早春です。虫の少ない時期なので、花粉を運ぶのは実は鳥です。甘い蜜に誘われたメジロが顔中を花粉だらけにして花から花へと渡り歩いていくのはこの時期の風物詩です。チャノキはもちろんその葉がお茶となる木です。秋の終りに白い5弁の花を下向きに開き、ツバキに比べれば地味ですが、花も実もツバキにそっくりで、まさしくツバキ科ツバキ属の木であることがわかります。中国南部雲南省が原産地で、日本では奈良時代、最澄、空海などがお茶の種子を持ち帰ったと言われています。しかし広く栽培されるようになったのは、鎌倉初期(1191年)に栄西が

持ち帰ってからといわれています。その後、飲茶の習慣は東アジアのみならず世界各国に広がっていきました。もとの木は一種しかありませんが、食文化としてのお茶の種類は世界中で数限りなくあります。これほど各地でバラエティーに富んだ文化を花開かすことのできた樹木は、チャノキのほかにはないといってよいでしょう。

茶が中国から日本へ伝えられたと同時期、遣隋使、遣唐使を通じて日本の特産樹、特産油であるツバキとツバキ油が中国に渡りました。中国では茶にするものは「茶」、種子から油を採るものは「油茶」、花を鑑賞するものを「茶花」と呼んでいます。当時、中国にも在来の「油茶」に相当する植物はありましたが、ツバキは日本から中国に輸出された数少ない特産品の一つになりました。同じツバキ属の二つの樹木が交互に果たした文化的交流は今に続いています。



ヤブツバキ (ツバキ科)



チャノキ (ツバキ科)

## 6. 会員の声

今回もありません。

## 7. 会よりの連絡事項 (事務局より)

猪被害修復作業も3月第一回活動日で終了予定です。会員皆さま、寒い時期に大変ご苦勞様でした。孟宗竹を使用したことで、今後猪が警戒し被害がなくなると確信します。

会員の活動日の出席率が高く毎回20名以上の参加を得ればビオトープの維持管理も楽に行なえ、更にレベルアップされた活動が出来るのでは?とも思っています。現在は非定常な活動を車地会員を中心にお願いし定期活動がスムーズに行なえるよう準備作業又残作業の仕上げ等をお願いして何とかやりくりしております。定期活動もあまり無理をしないでエコアップ、会員相互の勉強会や憩いの場としたいものです。

## 8. 編集後記

連続で美濃和さんに植物記事を記載いただいています、大変ありがたく会報も一つレベルアップとなっています。そこで提案ですが、会員の中には動物特に昆虫には蝶々、トンボ、水生昆虫と経験豊富な方がおられます。今後は美濃和さんに負けじと各分野での投稿を依頼したく思います。

会員の声も毎回なくいつの間にか消えてしまいそうです・・・は我々編集部の手抜きでしょうか?

(原田 満洲夫 記)